

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	Vector Flow Mapping による左室エネルギー損失計測における解析断面の影響			
② 実施予定期間	2024年12月16日から2028年3月31日			
③ 対象患者	対象期間中に当院で心エコー図検査を受けた心疾患の既往のない患者さんのうち、18歳以上40歳未満または50歳以上の方			
④ 対象期間	2021年4月1日から2024年10月31日			
⑤ 研究機関の名称	別添参照			
⑥ 対象診療科	第一内科、第一外科、第二外科、整形外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉頭科、産婦人科、歯科口腔外科			
⑦ 研究責任者	氏名	小室 あゆみ	所属	山口大学医学部附属病院 第二内科
⑧ 使用する情報等	1)背景：年齢、性別、身長、体重、Body Surface Area (BSA)、Body Mass Index (BMI)、併存症（高血圧症、糖尿病、脂質異常症、心疾患の既往）、喫煙歴 2)検査項目：検査日、血圧、心拍数、左室拡張末期径、左室収縮末期径、左室駆出率、左室流入速度波形、僧帽弁輪運動速度波形、左室心筋重量、左房容積、心尖部三腔像および心尖部四腔像のEL			
⑨ 研究の概要	近年、Vector Flow Mapping (VFM) 法と言われる新しい技術が開発され、心腔内の血流が可視化できるようになりました。これにより心腔内の血流エネルギーを解析することができ、多くの論文でその有用性が報告されています。VFM法では心臓の仕事量を反映していると言われるエネルギー損失 (Energy Loss: EL) を求めることができます。ELは心エコーで、左心室を観察する断面である心尖部三腔像と四腔像と言われる二つの断面で解析することができますが、どちらの断面を使うべきか、その使い分けや断面の違いによる計測値の差については報告がありません。そこで、二つの断面で左心室のELにどのような差が見られるかを検討し、その違いや使い分けについて、明らかにしたいと思っています。			
	この研究では、上記に記載しています対象となった患者さんの情報を収集します。一方、別途、新しい被検者さんに参加してもらいデータ集めも同時に行っています。その2つの研究で収集した情報を合わせて山口大学医学部附属病院でデータを取得・解析し検討します。これらの情報は、個人情報特定できない形でデータを取り扱い、附属病院および山口大学大学			

	院医学系研究科保健学専攻の研究員で共有して、研究を進めます。		
⑩ 実施許可	実施許可日	2026年 2月 27日	
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。		
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。また、本研究は山口大学大学院医学系研究科（保健学専攻）の博士論文として公表される可能性があります。		
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。		
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。		
⑮ 研究の資金源	第二内科の奨学金付金		
⑯ 利益相反	ありません。		
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学医学部附属病院 第二内科 小室あゆみ		
	電話	0836-22-2248	FAX

別添

研究代表者

小室あゆみ 山口大学医学部附属病院 第二内科 助教

研究参加機関と研究責任者

山口大学医学部附属病院 第二内科 助教 小室あゆみ

山口大学大学院医学系研究科保健学専攻 教授 山本健